

# 行政視察報告書

令和 6 年 10 月

総務文教常任委員会

- 1 視察実施日・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2 参加者・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 3 視察先及び調査事項・・・・・・・・・・P 1
- 4 視察先の概要・・・・・・・・・・P 1～P 2
- 5 調査事項の概要及びまとめ・・・・・・・・P 3
- 6 各委員報告書・・・・・・・・・・P 4～P 8

## 1 視察実施日

令和 6 年 1 0 月 4 日(金)

## 2 参加者

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 委 員 長 | 藤尾 潔              |
| 副委員長  | 別府みどり             |
| 委 員   | 長谷川幹雄、松本美和子、大久保忠義 |
| 議 長   | 高瀬俊介              |
| 随行職員  | 壺井初美、依藤浩司         |

## 3 視察先及び調査事項

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 視 察 先 | 兵庫県西脇市                |
| 調査事項  | 地域公共交通（むすブン・めぐリン）について |

## 4 視察先の概要

西脇市は、昭和 2 7 年 4 月 1 日に多可郡西脇町、日野村、重春村及び比延庄村の 1 町 3 村が合併し市制施行。その後、昭和 2 9 年 3 月に加西郡芳田村を編入、平成 1 7 年 1 0 月に多可郡黒田庄町と合併し、新「西脇市」が誕生。

兵庫県のほぼ中央部、東経 1 3 5 度と北緯 3 5 度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置し、中国山地の東南端が播磨平野に接する地点にあり、西光寺山（標高 7 1 2 . 9 m）を最高峰に標高 2 0 0 ～ 6 0 0 m の産地や丘陵に囲まれている。また、中央部を県下最長の加古川が流れ、市域南部で杉原川、野間川と合流しており、これらの河川沿いに開けた平野部に集落や農地が形成されている。

農業を中心とした農村集落が点在し、早くから綿作が行われ、江戸時代には農閑期の副業として綿織物が作られるようになり、明治中期には家内工業であった綿織物が次第に工場生産へと移り、「播州織」としてその名が知られるようになる。織物産業の成長と鉄道の開通に伴い、耕地整理の終了した西脇区を中心に住宅や商店が立ち並び、市街地が形成された。

道路交通網については、東播磨臨海部と丹波・北近畿を結ぶ広域幹線道路である国道 1 7 5 号が市域中央部を流れる加古川に沿うように南北に走っているほか、国道 4 2 7 号、県道黒田庄多井田線、県道上鴨川西脇線、主要地方道西脇八千代市川線などが隣接市町を結んでいる。また、市の南側には京阪神地域と直結する中国自動車道が走っており、高速路線バスでは大阪から約 9 0 分の距離にある。鉄道は J R 加古川線が山陽本線加古川駅と福知山線谷川駅を結んでおり、神戸から約 8 0 分の距離にある。

### (1) 人口と世帯数（住民基本台帳）

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 人 口 | 37,861 人（男：18,206 人、女：19,655 人） |
| 世帯数 | 17,309 世帯                       |

|        |         | 男        | 女        | 計        | 構成比     |
|--------|---------|----------|----------|----------|---------|
| 年少人口   | 0～14 歳  | 2,107 人  | 1,978 人  | 4,085 人  | 10.79%  |
| 生産年齢人口 | 15～64 歳 | 10,499 人 | 10,203 人 | 20,702 人 | 54.68%  |
| 老年人口   | 65 歳以上  | 5,600 人  | 7,474 人  | 13,074 人 | 34.53%  |
| 計      |         | 18,206 人 | 19,655 人 | 37,861 人 | 100.00% |

※令和 6 年 8 月 1 日時点

(2) 面 積 1 3 2 . 4 4 km<sup>2</sup>

(3) 市内総生産額

令和 2 年度市内総生産額 : 1,400 億円

(4) 産業分類別就業者人口割合 (R 2 国勢調査)

- ・ 第 1 次産業 : 2.1 %
- ・ 第 2 次産業 : 37.2 %
- ・ 第 3 次産業 : 60.7 %

※地場産業である織物・釣針などの製造業に従事する人が多いことから、県平均と比較して第 2 次産業、特に製造業への就業者割合が高い傾向にある。



※西脇市ホームページから抜粋

## 5 調査事項の概要及びまとめ

### 【地域公共交通（むすブン・めぐリン）について】

西脇市においては、路線バスや鉄道と、市街地を循環する定時定路線型乗合バス「めぐリン」、乗合タクシー「むすブン」を組み合わせ、市民に利便性の高い公共交通を提供できていると感じた。

「めぐリン」については、2台（車両としては予備車両が1台）のバスにより、ほぼ1時間に1本のパターンダイヤを実現し、加東市「伝タク」の約2倍の予算で約10倍の利用者があった。

伝タクも本年度ルート変更などの見直しを行ったが、さらなる見直しの方向性として有益な示唆があった。

「むすブン」については、実施している方式は先般視察した丹波市と類似していると感じられた。市民に一定の価格で利便性の高い公共交通を提供できている反面、システムの運用費・オペレーターの人件費も高額であり、現在加東市が実証実験を行っているタクシー運賃助成型のデマンド交通と費用面・効果面などでの比較検討を行い、加東市にとって有効な方法の研究を今後とも進めていきたい。

また、路線バスの均一運賃制度の検討も、システム面統合の費用などは一時的にかかるが高校への通学や、通院などに有効であると感じた。

今回の視察によって得られた知見を活かし、加東市民にとって使いやすい公共交通が実現できるよう努めていきたい。

## 6 各委員報告書

### 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員長 藤 尾 潔

#### 【地域公共交通（むすブン・めぐりん）について】

令和5年度実績

|            | 伝 タ ク                                   | めぐりん                                                      |
|------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 予 算        | 9 5 3 万 1 千円                            | 1, 9 6 9 万 5 千円                                           |
| 車両台数       | 1 台                                     | 2 台                                                       |
| 便 数        | 5 便／日<br>パターンダイヤではない。<br>2－3 時間に 1 本来る。 | 平日は時計回り 1 1 便、<br>反時計回り 1 0 便<br>ほぼ 1 時間に 1 本のパター<br>ンダイヤ |
| 1 日当たり利用者数 | 9. 2 9 人                                | 7 0 人以上                                                   |
| 年間利用者数     | 2, 2 4 9 人                              | 2 1, 9 5 6 人                                              |

約 2 倍の予算で 1 0 倍の利用。1 時間に 1 本のパターンダイヤも市民から好評。今まで本会議・委員会で何度も取り上げてきたことであるが、感想を改めて書く必要もないレベルである。

むすブンについてはデマンド予約システムに相当の経費も要しており、現在のタクシー運賃助成の方向で持続可能なのであれば、今の方式をベースに考えていくべきではないかと思う。運賃については、変更後の実績報告を受けて検討する必要があると思う。

北播磨広域定住自立圏を活用した「均一運賃制度」のエリア拡大は、児童生徒の通学や、通院等に非常に有益であると考え、財政負担が生じても前向きに検討すべき。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会副委員長 別 府 み ど り

### 【地域公共交通（むすブン・めぐリン）について】

定時定路線型乗り合いバス「めぐリン」は車両台数 2 台と予備車 1 台、専属のドライバーは 2 名で運行している。経常費用は約 2500 万円で、国庫補助等を差し引き、市からの補助金は約 2000 万円となっている。パターンダイヤで市民に分かり易い仕組みにし、高齢者サロンや（利用者はほぼ高齢者若しくは障がいのある方）出前講座などで周知し認知度も上げているためか利用者数も年々増加している。

乗合タクシー「むすブン」は、自宅近くのゴミステーションや公共施設などから目的地までの移動に利用されている。ゴミステーションを乗車場所としたのは、ごみ収集車が通行可能で少しの時間は問題なく停車できる場所として乗合タクシーも通行や停車が可能であること、また、ゴミステーションは自宅から比較的近い場所にあることから設定された。「むすブン」の車両台数は 6 台で運行は地元のタクシー業者に委託されている。利用実績は当初から絶えず予約が入り、走りっぱなしの状況という。乗り合いになる頻度を上げるのは効率的な運行に繋がるかもしれないが、利用者の時間調整が必要になる為、自由度の高い運行を目指しているとのこと。

公共交通の考え方は、他の公共交通とのバランスを考えながら、既存交通の事業者さんとの共存を大切にし、まずは公共交通のネットワークを広げることを目的とし、生活の為に利用しやすい設定にしている。サービスを上げることで他の公共交通の撤退を招かないように、バランスの良い運行を意識されている。

「わかりやすく利用しやすい公共交通」が利用者に広がり、利用率の向上に繋がっていると感じた。普段よく見かける「むすブン」や「めぐリン」であるが、今回の視察でその取組や仕組みを詳しく教えていただき、大変参考になり実りある行政視察となった。

また、公共交通については、平成 28 年度の「議会と語ろう会」において、公共交通の不便さを市民から受けたことがきっかけとなり、令和 3 年から現在の制度を構築している。議会と語ろう会（議会報告会）での地域住民の声を、「地域公共バス交通のありかた」として政策提案を行い、実現へとつなげたとのことで、議会の機能としての学びにもなった。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 長 谷 川 幹 雄

### 【地域公共交通（むすブン・めぐリン）について】

村井正信総務産業常任委員会委員長の挨拶から始まり、公務ご多忙ななかを都市経営部まちづくり課の和田課長補佐より懇切丁寧な、分かりやすい説明があり、今後の加東市に於ける地域公共交通の取組に対して生かすことのできる良い視察でした。誰でも、自由に乗れる公共交通を目指して取組んでいることに頭が下がりました。通常は長い時間をかけて担当者が取組んでいる自治体のなかで、複雑な公共交通の仕組みをしっかりと勉強されて就任 4 年目にも関わらずしっかりと公共交通を理解されて取組まれていることにも感動致しました。

聞きますと、議会からのご意見もしっかりとりいれてされているようで、それらが反映されて運行されているので、右肩上りの乗車人数につながっているように思われる。

めぐリンの運営経費は約 2500 万円で、令和 2 年度まで使用されていたコミュニティバス「つくしバス」を使用しているとのことであった。これによる積み残し等はないとのことであった。2 台で時計回りと反時計回り循環している。

1 乗車 100 円で定時定路線の乗り合いバスである。障がい者にも配慮した車いす対応のユニバーサルデザイン車両で運行している。

月曜から土曜日（日曜日・祝日・年末年始を除く）運行日である。

むすブンの運営経費は約 5000 万円で、市内を「北部運行区域」「南部運行区域」「総合乗入区域」に分類して乗り継ぎにより区域外の移動も可能である。

自宅近くのごみステーションや公共施設などから目的地、目的地から目的地など、任意の場所間を乗合いで移動が可能である。月曜から土曜日（日曜日・祝日・年末年始を除く）運行日である。こちらも障がい者にも配慮した車いす対応のユニバーサルデザイン車両で運行している。1 乗車 200 円（中学生～64 歳は 400 円）身体障害者手帳所持者及びその介護者は 200 円であるなど、住民に配慮した取り組みがされている。丹波市と同じようにオペレーターによる予約システムで対応している。

コミュニティバス「おりひめバス」も料金均一の 100 円で運行している。わかりやすく利用しやすい公共交通を維持していくことを目標としているとのことであった。他の公共交通機関の撤退を招かないようにバランスのいい運行を行い、相互に利用を促進する程度の効果を持たせることが理想的でそのような運行を目指しているとのことであった。

### 【その他】

加東市も丹波市や西脇市のようないつでも、誰でも利用できる公共交通を目指して頑張って頂きたい。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 松本美和子

### 【地域公共交通（むすブン・めぐリン）について】

西脇市の乗合タクシー「むすブン」は、自宅近くのごみステーションまたは、公民館から乗車でき、公共施設はもちろん、商業施設などにも行くことが出来る。料金は400円を基本としているが回数券利用などで実質250円で乗車することも出来る。中学生も利用でき、市民にとって便利だなあと感じた。

めぐリンは、100円で利用でき、交通系ICカードも利用できる。決まった時間に来る（パターンダイヤ）し、時計回り、反時計回りが30分ごとで使いやすくなっている。西脇市駅で鉄道の時間に合わせて運行もされている。病院や市役所、図書館やスーパーなど市街地の主要な施設を回っているので、使いやすい。どこまで行っても100円で使いやすい、という市民の声が多い。ただ、運行本数が少ない、バス待ち環境が悪いという市民の声もある。学生の利用や通勤利用などで利用実績が上がっている。西脇北高校へ西脇市駅から行くのは遠く、駅から学校間を自転車利用していた高校生に、めぐリンがあるよ、利用してねということで、利用実績の向上につながった例も紹介してもらいました。

むすブンもめぐリンも予算的にはたくさん経費はかかるが、西脇市内で、実際に見かけることも多く、市民の利便性の向上につながっていると思う。高齢者が外出しにくい環境で気持ちが落ち込んでしまうよりも、外出したいときに気軽に利用できる、100円バス、400円のタクシー料金設定はとても重要だと感じました。今回の視察はとても学びの多い視察でした。



## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 大久保忠義

### 【地域公共交通（むすブン・めぐリン）について】

ループ型の定時定路線乗り合いバスの「めぐリン」、予約型の乗合タクシーの「むすブン」、について歴史的な部分も含めて、考え方・運営方法・経費・利用者実績推移などについて説明をうけた。

また、ループ型のコミュニティバスの「おりひめ」についても説明をうけた。事前の質問に対する回答も資料の中に入れて頂き非常にわかりやすく感じた。

JR加古川線、神姫バス各路線との兼ね合いを考えながら、地域公共交通を整備されており、運行時間に関しても「めぐリン」の1時間ごとのパターン運行や、「むすブン」の予約システムなど、わかりやすく意識されていた。

とりわけ、「むすブン」の予約システムには、予約する人の希望時刻に対して、候補車両を選択の自由度があり、利用しやすいと感じた。

また、医療機関とやすらぎ苑には、乗り継ぎなしで行けるのは非常に良いと感じた。

西脇市での「むすブン」のエリア分けがされており、市の中心地エリアには相互乗り入れをおこなっている事や、この区域の乗降で北部運行区域と南部運行区域の行き来ができる事は市民の利便性に寄与していると感じた。

「おりひめ」と「むすブン」は、株式会社ウイング神姫と市内タクシー会社2社に運行は委託されているところと、「めぐリン」「むすブン」はユニバーサルデザインで車いすでの乗車が出来るところも加東市と異なり参考になった。

路線バス均一料金は、両市ともに100円で運行しており、相互乗り入れの可能性に検討の余地はあると回答をいただいた。問題点などの検討と改善を行なうことにより、お互いにメリットがあると感じた。

元々あった、「つくしバス」の「めぐリン」への流用や、比延地区コミュニティバスを流用しての「おりひめ」などのように経費を抑える努力をしながら市民のニーズに合わせた取り組みをされていると感じた。

「むすブン」の利用料金については、低料金を採用している。加東市のようにタクシー利用はなく、専用車両である部分が大きいと思うが、利用者としては非常にありがたいと感じた。

今回の視察において、本市と異なる事がたくさんあり、また、参考になる事もたくさんあった。今後の委員会活動に活かしたい。